

人類と地球の平和的共存を目ざして

人口と開発

Population & Development

夏

JUL/1997

No. 60

財団法人 アジア人口・開発協会(APDA)



巻頭言／水は支配する

川野 重住 3

『ODA拠出金の削減』『少子・高齢化問題』に危機感

4

・人口懇話会活動一斉にスタート 4

・国内対策・女性問題・合同部会 5 / 国際協力部会 9

地球規模問題部会 12

・本財団二理事、国際的栄誉に輝やく 17

・国連人口賞——黒田俊夫氏

・韓国石榴章——森 一久氏

◆少子化問題対策は日本の国家百年の計

熊代 昭彦 21

アティヤ・イナヤトゥラーPPF会長

国際人口問題議員懇談会メンバーと懇談

25

稲作の再構築

内村 良英 26

◆中国・黄土高原の砂漠緑化

長谷川 功 28
中川 聡史 34

◆バンコクの都市中間層の暮らし

アフリカ・アラブ国会議員フォーラムが発足

40

——FAAPPD・ケープタウン宣言——

にゅーすふぉーらむ

44

年金負担感増に見直し案／中国国土の
4割酸性雨禍／円安でODA実績35%
減／ODA中期目標は「撤廃」／OD
Aの改革を提言／地球環境保護の長い
道程／初の加藤シヅエ賞2団体／少子
化、国の対策範囲は／温暖化でコメま

ずくなる／子供最低の一九五二万人／
「働く子供」二億五千万人／中国食糧生
産5億ト突破／消費大国日本を点検／
ODA98年予算10%削減／中国の18%
砂漠Ⅱ初調査／アジア開銀リポート／
中国余剰労働二二〇万人／その他

A.P.D.A 賛助会員ご入会のお願い（特典） 43

本協会実施・調査報告書及び出版物 65 / APDA 日誌 69 / 表紙説明 70 / 編集後記 70

国際的栄誉に輝やく

本財団両理事

国連人口賞

黒田俊夫氏

韓国石榴章

森 一久氏

韓国はアジア発展のイニシアティブを

森氏、受賞挨拶で強調

本財団理事で、日本原子力会議の森一久副会長（七十一）が、四月二十一日、ソウルで金泳三大統領から、日本人では初の国民勲章石榴（せきりゅう）章を授与された。

外国人が同章を受けるのは異例のこととされ、日本原産会議の設立にかわり、産業界における原子力分野での取りまとめ役の森氏が、その経験を生かして韓国原産会議の設立に協力した功績を認

められたものである。

森氏は、京大理学部在学中の終戦の年の八月、郷里の広島に帰省中に被爆、両親はじめ肉親を五人も失うという悲運に遭遇している。受賞に際しては「韓国と日本がまづい関係になったのは歴史的に日本の責任が明白である。アジアの発展のために韓国のイニシアティブに期待する」旨の次のような挨拶をした。

本日貴国政府より国民勲章石榴章という身に余る褒章の栄に浴し、恐縮の極みに存じ、感謝に耐えません。

私の受賞の理由として、貴国を始めとする各国との原子力国際協力への功績があげられています。これは、私が四十年来、当然の仕事として当たり前のことをしただけであります。た

だ、わが日本では二十年位前までは、「国際協力」といえば、アメリカ中心の先進国に「おねだりすること」と皆が考えていた中であって、私が原爆で両親はじめ五人の家族を失った経験のためでしょうか、原子力はもう決して軍事に使うてはいけない、平和利用に徹し、国内のみならず世界中の人々の幸

「アジア人口学者の最長老」 黒田博士に敬愛の拍手



受賞した森氏と夫人

福に役立てなければならぬ、と考え続けて来ました。そして、「そんな協力が何になるのか」といった陰口など聞こえないフリをして、先進国以外のいくつかの国との間に道を開いてきました。しかしこれも、韓国の場合と同様、相手国の方に、皆さんのような、心温かく先見ある友達がいてくださったお陰で成功したのであって、決して私独りの力ではありません。

さて、いつも私の頭を去来する問題

は、「何故」韓国と日本とがこんなにまずい関係になってしまったのか、ということです。「閔妃暗殺」という本（これは今では日本人の間で隠れたベストセラーになっています）を、出発前私はもう一度読みなおしてきましたが、歴史的に日本の責任は明々白々で、暗澹たる気持ちに襲われるばかりです。

私は、我が家の「系図」の冒頭部分のコピーを持っています。それによると約九百年前の祖先は、「新羅三郎

義光」という半島からの渡来文化人なのです。このように血統上も濃密な関係にある両国民が何の運命で、こんな不幸な関係を続けているのか、歴史の中に教訓を見いだすことも大切でしょう。

しかしながら、世界の情勢を見渡すとき、あまり大きくない我々二国は安閑としていいのでしょうか。欧

州は既に一つの共同体EUに統合しました。世界は各地域でブロック化が進んでいます。何故文化的にも似通った東アジアで、「統合」ないし「連合」の動きがないのか。もしそれが出来たら、その力のすばらしさは（軍事力ではなく、技術的に経済的に文化的に）他のブロックに勝るとも劣らないであろうことは、皆さんも同意されるでしょう。

話を早く終わらせるため、例示に止めます。EU統合のときイニシアティブをとったのは、フランスと西欧の賢人でした。ドイツは力はあるても（日本と同じ理由で）イニシアティブをとる資格がなかった。同じく不幸な悲惨な歴史を乗り越え、じっくりと話し合いを積み上げ宮々と努力を重ねた、ヨーロッパの英知は、人類史上最高のものでした。私が貴国に何を期待しているか、もう分かって下さるでしょう。

最後に私のため、このすばらしい席を設けて頂いたことに、心から感謝いたします。韓国原産ならびに御臨席の皆様は末永きご発展をお祈り申し上げます。

など関係者が詰めかけた。今年は受賞者がラテン・アメリカとタイから選ばれたため、会場は民族衣装でとりわけ華やいだ雰囲気包まれた。